

9月は
防災月間です

被災地の今…

～改めて防災について考えよう～



平成28年4月14日以降に熊本県と大分県で相次いで発生した熊本地震は、各地に甚大な被害をもたらしました。
被災地である熊本県や、東日本大震災からの復興に取り組んでいる宮城県山元町などの現状を踏まえ、9月の防災月間にちなんで改めて「防災」について考えていきます。

熊本地震で大規模な土砂崩れにより崩落した阿蘇大橋（熊本県阿蘇郡南阿蘇村）

東日本大震災被災地の今 宮城県山元町



山元町役場 企画財政課
水田 隆史
(四国中央市からの派遣職員)
派遣期間
平成28年4月1日～
平成29年3月31日

現在も被災地には、多くの自治体などから職員が派遣される人的支援が続いており、私も今年の4月から宮城県山元町で勤務しています。山元町においては、役場で働く職員の3分の1以上が他自治体などからの派遣職員で構成されており、復興事業がまだまだ山積みになっていることを表す数字と言えます。

山元町の復興状況ですが、仮設住宅などに住んでいた方が、完成した分譲地や復興公営住宅に居を移し、新たな市街地が形成され始めています。その中には保育園に児童館を併設した子育て拠点や小学校、商業施設、JR常磐線の駅がありコンパクトシティのモデルのようなです。

また、山元町の特産品であるいちご産産は、ハウス栽培が再開されており、中にはこれまでの経験に裏打ちされた栽培技術に併せて、ICT（情報通信）技術を導入するなど新たな農業の形を実践する方も現れ、マスコットにも特集されています。



公共交通機関については、津波で大損害を受け代行バスでの運行を余儀なくされていた、JR常磐線の町内区間が12月10日に運転再開することになり、町外への移動手段も震災前の状態に戻りつつあります。
このように、少しずつではありませんが、復興は着実に進んでいます。その一方で、仮設住宅での生活を余儀なくされている方がいることや、仮設住宅の敷地となって使えなくなった公共施設が本来の機能を果たせないこと、震災遺構の保存方法の検討、震災後未整備のままの農地が残っていることなど、多くの問題が山積まれています。これらの問題を解決していくためにも、引き続き人的支援が必要とされています。
震災から少し時間が経ち、震災ボランティアの需要が無くなり、皆さまでとっては支援の方法がなかなか思い浮かばないかもしれません。旅行に行くことも支援になりますので、少し遠いですが、東北に足を運んでください。被災地を忘れない、震災時に抱いた熱い想いをずっと持ち続けることが大切です。

熊本地震における被災宅地 危険度判定活動を行って

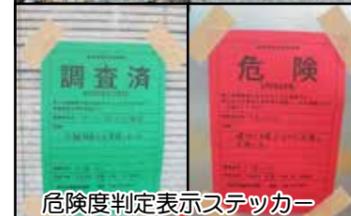


下水道課
宮崎 真
活動期間
5月9日～5月13日

今回の活動に参加し、被災された方々に地震直後の写真や体験談を伺うことができ、貴重な体験となりました。西原村では家屋がシートで覆われ、村全体が青一色になっており、南阿蘇村では東海大学の学生マンションの倒壊や阿蘇大橋の崩落など被害の甚大さを肌で感じることができました。また多くの道路が通行止めで、移動もままならない状況でしたので道路の重要性を痛感しました。いつ、どのような規模で起こるか分からない自然災害に対し、日頃から防災・減災を意識し、インフラ整備に取り組んでいきたいと思っています。



被災宅地危険度判定活動時に撮影した現地写真



危険度判定表示ステッカー



被災建築物応急危険度判定活動時に撮影した現地写真

現地での被災建築物応急危険度判定は、地震後の余震などによる、建物の倒壊や部材の落下などから生じる二次災害を未然に防止するために行いました。旧耐震基準の建物に多くの被害があり、建物の耐震化が必要だと思っています。
今回改めて地震が起こってからでは、できることが限られてきますので、災害を想定しての事前の準備・備蓄品の確保が重要だと感じました。



建築住宅課
藤原昭三
活動期間
4月28日～5月2日

熊本地震における被災建築物 応急危険度判定活動を行って

防災ボランティアの町

被災地での燧灘防災会の ボランティア活動



燧灘防災会
会長 大西 忍さん

東日本大震災以降、被災地へ微量ではありますが、米やみかんなどの救済物資を送り、仮設住宅などへは、ボランティア活動を継続して行っています。現地の様子は復興の兆しは見えてくるものの、まだまだ完全復興には程遠い状態です。現在でも、2割～3割の方が仮設住宅で生活されており、住民の方々の「心の復興」は全然できていません。今、現在想定できることを私たちも取り組まなければいけません。行政もできる限りの検証を行い、いろいろな「備え」に取り組んで欲しいと思います。これからは、自主防災も含めての地域の自主防災に取り組んで、更なる防災に対する意識付けが、改めて大事ではないかと考えます。

燧灘防災会は、「自助」「共助」の原則にもとづき、防災士のネットワークを構築し、防災意識の向上・技能研さんなどに努めている自主防災組織です。



岩手県住田町長に仮設住宅の方への義援金贈呈



陸前高田市 東日本大震災追悼式



気仙沼市 東日本大震災追悼式

平成28年3月9日～12日で岩手県住田町・岩手県陸前高田市・宮城県気仙沼市を訪問した際の写真です。